

## —1/11の授業の訂正と補足—

利潤主導型成長が得られるためには、 $f(1) > 0$ が必要であると説明しました。そして、その条件は、 $f(1) = \gamma(s_c - 2\beta)$ であるから  $s_c > 2\beta$  となる、と説明しました。しかし、これは計算ミスです。正しくは、 $f(1) = s_c\gamma - 2\beta\gamma - \alpha\beta$  より、 $s_c\gamma - 2\beta\gamma - \alpha\beta > 0$  が条件となります。この条件は、次のように変形できます。

$$s_c > \frac{\beta(\alpha + 2\gamma)}{\gamma}. \quad (1)$$

これが満たされやすいのは、 $s_c$  が大きいとき、 $\alpha$  が小さいとき、 $\beta$  が小さいとき、そして、 $\gamma$  が大きいときです。

— $\gamma$ が大きいとき, 不等式(1)が満たされやすくなる理由—

不等式(1)において,  $\gamma$ が大きくなると, 右辺は小さくなります. 実際, (1)式の右辺をRHSと置いて $\gamma$ で偏微分すると, 次のようになります.

$$\frac{\partial \text{RHS}}{\partial \gamma} = -\frac{\alpha\beta}{\gamma^2} < 0. \quad (2)$$

利潤主導型成長が得られるための条件.

1. 資本家の貯蓄率が高い
2. 投資関数の定数項が小さい
3. 投資が稼働率にあまり反応しない
4. 投資が利潤シェアに強く反応する